

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 25日

公表:令和 6年 3月 27日

事業所名:児童発達支援センター楽田RAKUDA

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・法令を遵守した広さを確保しています。利用者が多いため、収納場所など工夫してなるべく広いスペースがとれるようにしています。	
	2 職員の配置数は適切である	○		法令基準4:1に対して1~2:1の職員が配置できるようにしています。食事や排せつなどで1対1での支援が必要な利用者が多い時には、職員配置を調整して安全に支援できるようにしています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・障害の特性によるクラス分けをし、それぞれがわかりやすい環境づくりを心掛けています。車椅子やバギーで直接教室に入れるようにスロープを作っており、室内は段差なく移動できるようになっています。	屋外への出入り口が障害によっては使用しにくいいため、どのように改善するのがいいか検討していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		安全に気持ちよく過ごせるよう毎日清掃、整理・整頓に努めています。活動に合わせて机や遊具を配置しています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	常勤職員を中心に、より働きやすい環境が整えられるよう日常的に現場の声が反映できるようにしています。	勤務時間帯が違う職員間での情報共有が図れ、より多くの職員が参画できるような仕組みづくりに努めます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向け評価表の結果をふまえ改善内容を検討しています。	保護者向け評価表の結果、改善内容等を職員全員で共有できるようにしていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価は行っていません。	今後必要に応じ検討していきます。
9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		多くの職員に参加の機会を提供できるように、研修の案内はその都度職員全員が見ることができるようにしています。業務時間外の研修に参加できる職員が少ないため、勤務時間内に参加できる内部研修を行ったり、外部研修も取り入れるようにしています。研修に参加した時には研修報告書により、法人全体の職員が共有できるようにしています。	事前に資料を配布し、短時間でもできるような内部研修を行い、パート職員も参加できる機会をなるべく多く持てるようにします。外部研修も積極的に多くの職員が参加できるようにしていきます。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		調査票・面談等で家庭や病院での様子を伺い子どもの状況や保護者のニーズを把握しています。また、そのうえでアセスメントツールで子どもの状態や課題を把握し、計画を作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		個々のケースに応じて、遠城寺式とKIDSのどちらか、または両方を使用しています。医療機関による発達検査の結果も取り入れています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援ガイドラインにある項目に従って目標と具体的な支援内容を設定しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画にある支援内容を日々の活動の中に取り入れています。常に計画の目標を意識しながら支援できるようにクラスごとに目標を一覧にしたものを作ったり、ケース記録の様式も工夫して作成しています。また保護者にもわかりやすいよう日々の連絡帳でお伝えし、面談時に詳しく説明しています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各クラスごとに日々の活動プログラムを決めています。全体の行事に向けての活動に関しては常勤職員が原案を作り、それをともに職員で話し合って決めています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節の行事、クッキング給食、買い物、公園、児童館、図書館など子どもができるだけ主体的に楽しみながらできることや、経験の中が広がることを大事にして、色々な活動プログラムを考えています。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		子どもの状況に合わせて、児童発達支援ガイドラインにある本人支援の5領域それぞれの項目において個別、集団両方の活動を想定して計画を作成しています。「人間関係・社会性」の領域に関しては集団活動を主な活動としています。		

適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	勤務時間の違いや送迎の都合上全員が集まることは難しいため、常勤職員と勤務時間を延長した非常勤職員の打ち合わせで決まった支援の内容や、役割分担がわかる表を作り、勤務前に見て全員が確認できるようにしています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	常勤職員が支援終了後に送迎に出る為、支援終了後に残っている非常勤職員が振り返りを行い、送迎終了後にそれを参考に常勤職員でその日の支援の振り返りを行っています。参加できない非常勤職員とは翌日気づいた点、送迎時保護者からの連絡事項など共有するようにしています。全員で情報が共有できるよう各クラスごとで連絡ノートを活用しています。	勤務形態や勤務時間の違う職員が情報を共有できるように連絡ノートなどのツールを活用していきます
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	支援内容の記録、個々のケース記録をとり、それをもとに支援の評価・改善につなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	半年ごとにモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断しています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	ケースに応じ児童発達支援管理責任者、理学療法士、担当保育士が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	子どもの発達支援センターが行っている親子教室に職員を派遣したり、発達支援連携会議に参加して連携した支援ができるようにしている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	保健師や訪問看護事業所と連携し情報交換をしています。また病院の症例検討会にも参加しています。各市の相談支援専門員とは密に連絡を取るようになっています。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	主治医とは保護者を通して、協力医療機関とは直接連絡がとれるようにしています。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	連携を進めてきた結果、移行する保育園が市内の場合は支援内容等の情報共有と相互理解は図れるようになってきています。	幼稚園や市外の保育園とも図れるように連携を進めています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	小学校、特別支援学校小学部とは日常的に連携できるよう努めています。特別支援学校の先生の保育実習も毎年積極的に受け入れています。移行の際の引継ぎは書面のほか、必要に応じ職員が学校に向かいに行っています。毎年5月に担任の先生の訪問があり、入学前入学後の情報交換をし、相互理解が図れるようにしています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	現在他の児童発達支援センター、事業所とは連携がありません。障害児療育等支援事業で発達障害者支援センターの研修を受けることはあります。	他の児童発達支援センター、事業所とどのような形で連携するのがいいのか検討していきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	感染症の出していないときに地域の保育園との交流を行えるように、交流先の保育園の園長先生と連携を図ることで実施することができました。	今年度は一年を通じていろいろな感染症が流行し、保育園交流に参加できる機会が少なくなってしまったため、早期に計画的に交流を進め、なるべく多くのお子さんが参加できるようにしていきます。また児童館や図書館などに出かけて、障がいのない子どもと接する機会も作っていきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	子ども部会にはセンター長が、市の発達支援連携会議には児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	毎日の送迎の際や連絡帳で子どもの様子をできるだけ多く伝えるようにしています。また、半年ごとの面談のほか必要に応じて面談を行ない共通理解が持てるよう努めています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	ペアレントトレーニングなどの家族支援プログラムは行っていませんが、個々のケースに応じて保護者の対応力が向上できるよう支援をしています。	保護者のみなさんが前向きに子育てできるように求めている支援ができるようにしていきます。	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に、契約書、重要事項説明書を用い丁寧に説明しています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	面談時に支援内容の説明をして保護者の同意を得ています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	半年ごとの面談時のほか、保護者からの要望に応じ、その都度相談に応じ助言と支援を行っています。必要な時は担当の相談支援専門員にもつなげています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	新規利用の保護者には親の会の案内をしています。保護者参観の後に保護者同士の情報交換、連携ができるようお茶会を開いています。	定期的に保護者同士の情報交換できる場を提供していきます。また保護者の要望があればOBの保護者から情報をいただき、相談にのってもらえる機会を作っていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	相談申し入れがあった場合は、すぐに適切に対応できるようにしています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	月に一回センターだよりを発行して情報発信しています。また年に数回法人で会報を発行しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	個人情報のファイルは鍵付きのキャビネットに保管しています。法令遵守マニュアルで大枠を定め、個人情報保護規定でその詳細を定めています。ホームページには個人情報保護方針を掲載し、その内容を示しています。他機関とのやり取りでやむを得ず情報を提供する場合は、同意書の内容に従い最小限で行っています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	子どもに対してはそれぞれの状況に応じ、できるだけわかりやすい方法で伝えるようにしています。保護者とは連絡帳やメール、電話など家庭状況に応じた方法で意思疎通や情報伝達ができるよう配慮をしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	行事に地域住民を招待することはありませんが、地域の民生・児童委員の見学は積極的に受け入れています。その他地域住民の見学希望にも応じています。保育実習や地域の大学病院の社会医学実習の受け入れも積極的にしています。	
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しています。職員は会議の際に見直しや理解を深めています。保護者には契約時にお知らせしています。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年間計画に基づき月に1回訓練を行っています。実施後は担当が中心になり訓練の検証を行っています。	災害時に役に立つ訓練になるために、訓練の検証をしっかりと行うとともに、様々な場面を想定した訓練を実施していきます。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	調査票、面談で確認しています。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	○	医師の指示書に基づき対応しています。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット報告書を作成、回覧し職員全員で共有しています。また会議で改善案を話し合っています。	報告書作成、回覧の時間を短縮し、より早くしっかりと共有できるための方法を考えていきます。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	定期的に職員は虐待のセルフチェックをし、その結果があれば児童発達支援管理責任者が面談を行っています。外部・内部の研修に参加の機会を作っています。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	やむを得ない身体拘束については組織的に決定し、保護者に面談で事前に説明し了解の上、計画に記載しています。現在対象のお子さんはいません。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 3月 27日

アンケート期間:令和 6年 2月 10日~令和 6年 2月 29日

事業所名:児童発達支援センター楽田RAKUDA 保護者等数(児童数) 22 回収数 20 割合 90.9%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%	・クラスによってスペースの取り方が違うが、それぞれに合っていると思う。	室内の整理整頓に心がけ、限られたスペースをなるべく広く使えるようにしていきます。外遊びでは園庭が狭いので、近くの公園も利用していきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	95.0%	0.0%	0.0%	5.0%		法令では4人に対して1人の配置が義務付けられています。お子さんの状況に合わせ楽田では1~2人に対して1人の職員は配置しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		集中できる環境を作るため、不要な物は目に入らないようにする。机の配置など考慮するようにしています。引き続きそれぞれのお子さんの特性に配慮した環境づくりに努めていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%		毎朝お子さんたちが来る前に床の拭き掃除も含めすべての活動スペースの清掃、消毒等を引き続き行っています。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		お子さんのニーズについては、どのお子さんにも必ず意思はあるということを忘れず、それを丁寧に汲み取ることを大切にしています。保護者の方とは面談や日々のやりとりの中から、本当のニーズや課題を見つけていけるよう努力しています。それらを基に計画を作成しています。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	90.0%	5.0%	0.0%	5.0%		引き続き、児童発達支援ガイドラインの内容に従って計画を作成していきます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		引き続きそれぞれの個別支援計画でお示した支援を日々の活動の中で行っていきます。半年に一度のモニタリングで評価を行い、面談でお話していきます。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	90.0%	5.0%	0.0%	0.0%	季節に合わせた行事があり、子供も楽しんでいると思う。・毎日色々なプログラムを組んで頂いて、とても家ではやってやれないことをいつも頂き感謝しております。	・それぞれの個別支援計画に沿って、繰り返し行っていくことと新しく取り組むことの両方を組み合わせながら、活動を工夫していきます。お子さんの様子が分かるよう連絡帳に記入することともに、送迎時にお知らせできるようにします。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	55.0%	15.0%	0.0%	25.0%	感染症の流行であまり交流がなかったのが残念でした。	・コロナ感染対策が緩和された今年度はコロナだけでなく、インフルエンザやRSウイルス等の感染者がセンターでも交流先の保育園でも季節を問わずに出ていました。どちらも出ていない期間がとてまもなく、思うように交流ができませんでした。来年度は早い時期から交流先の保育園と連携を取りながら、なるべく多くのお子さんが交流できるようにしていきます。
10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%		・今後も、契約時に丁寧に説明を行うようにしていきます。	

保護者への説明等	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	定期的な面談もあり、その時以外でも相談やこまりごとなどに都度対応していただいていると思います。	引き続き書面と面談時にお話していきます。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	60.0%	15.0%	0.0%	20.0%		どのような家族支援を保護者の方が求めているか、個々のご要望に応じる形で支援していくよう考えています。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態、課題について共通理解ができているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・日中の子供の様子をノートに書いて頂けて、子どものすごしてきた様子が分かりやすいです。・毎日送迎時にその日にあったことを口頭で伝えてくれている。	日々のお子さんたちの状況については、送迎時や連絡帳で伝えあうことはかなりできてきていると思います。引き続き、半年に一度の面談以外でもなるべくお話できる機会を作っていきます。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		今後も、半年ごとの面談の他にもご希望があればいつでもお話を伺う機会を作ります。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	80.0%	10.0%	0.0%	10.0%	・定期的に催されていて、親同士で交流もできるのではともありがたい。	お茶会で保護者の皆さんが情報交換できたり、先輩ママさんの話が聞けたり貴重な場となっているので、来年度も行っていきたいと思います。将来に向けてOBの保護者の方との交流会を、コロナで中止していましたが今年度は開催でき、参考になるお話を他多く聞くことができました。来年度も予定しています。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	90.0%	0.0%	0.0%	10.0%	・子供に対して細やかな気配りにはいつも感謝しています。	保護者の方からのお申し出や相談があった場合は、これからも迅速かつ丁寧に対応できるようにしていきます。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	95.0%	0.0%	0.0%	3.8%	・連絡帳に活動内容が細かく書いてあり、更に口頭説明もあるのでとてもわかりやすい。	お子さんや保護者の方との意思の疎通や情報の伝達がスムーズにいくか常に心掛け配慮するようにしています
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	85.0%	10.0%	0.0%	5.0%	・ホームページで行事予定などを掲示していただけると嬉しいです。	・来年度から、年度初めにお渡ししている年間予定をホームページでもご覧いただけるようにします。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%		引き続き個人情報の取り扱いについて十分注意するようにしていきます
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	90.0%	0.0%	0.0%	5.0%		各種マニュアルについては参観時等ご覧いただけるようにします。防犯・感染症を発生した訓練がほとんどやれてこなかったのが重点的にやっています。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		月に1回訓練をしています。今年度職員が消防学校での地震体験に参加して、本当に災害が起きた時に役に立つ訓練になっているか、今までの訓練をふり返って考えるようにしてきました。いつ災害が起きてもいいように色々な場面を想定しての訓練を行っています。

満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%	<p>・毎日車が止まると嬉しそうに玄関まで歩いていきます。・初めてのことにおじけづいている様子を見て、うまく誘導いただいで楽しく通っています。・車に乗り込む時もスムーズで、子供本人が楽しみにしている様子が見られる。職員の顔を見てニコニコも毎日とてもニコニコで帰宅するので楽しんで行っていると思います。・色々な経験ができて楽しんで通うことが出来ています。・「楽田に行くよ!」と言うとニコニコです。とても楽しみに通っています。</p>	<p>・引き続き療育目標のお子さんたちの「心と体の土台を作る」ことができるよう、お子さんたちの好きなこと、得意なことを十分楽しみながら「ゆったり、じっくり」お子さん達と関わっていきます。</p>
	23	事業所の支援に満足しているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<p>・先生方の雰囲気にも子どもも安心して過ごせているようです。・個別に困ったことも対応して下さりとても助かっています。ありがとうございます。・良い刺激を受けています。・いろいろと気にかけていただき感謝しております。楽田に通うことができ、子どもも親もとても助けられ、成長することができました。支援にとても満足です。</p>	<p>・お子さん達と保護者のみなさんの心に寄り添って、これからも誠実に支援をしていきます。皆さんのご意見・ご要望を伺いながらお話できる機会を作っていこうと思います。</p>

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。